

北海道におけるインセンティブ 及びミーティングの開催促進の ための基礎調査

平成27年3月

国土交通省北海道局

1 調査の目的

- MICEのうち特に経済効果が高いとされる、インセンティブ（企業等の報奨・研修旅行：以下I）や企業等のミーティング（以下M）についてはこれまで調査が進められておらず、それらの誘致実績や誘致手法については未解明な部分が多い。
- また、海外都市においては、MICEが開催されているのに合わせた文化施設や公的空間等を利用したレセプション等の開催は、MICE誘致の観点から一般的となっており、特にIの振興のため有益であると考えられるが、本道をはじめ、我が国ではユニークベニューとしてのポテンシャルの高い施設は多く存在するものの、利用開放は進んでいない。
- そこで、本調査では、これまで北海道内において行われた主に海外からのIやMの実績や、誘致成功に至った経緯について整理し、今後の誘致に役立てるとともに、国内外におけるユニークベニューの活用事例を調査し、道内に存在するユニークベニューの利活用の参考にすることを目的とする。

2 調査の構成

北海道内外におけるインセンティブ及びミーティングの事例調査

(1) 北海道内の事例調査

- 道内事例概要調査
道内コンベンションビューローを中心に調査 20件
- 道内事例詳細調査
主催者側への個別ヒアリングを実施 20件

(2) 北海道外の実例調査

- 道外事例概要調査
道外コンベンションビューローを中心に調査 20件
- 道外事例詳細調査
主催者側への個別ヒアリングを実施 20件

(3) 事例調査結果からの考察

- 北海道内において開催されたI及びMの誘致から開催までの開催地側の取組に関し、今後改善すべきと考えられる点
- 北海道外において開催されたI及びMの誘致等の取組について、北海道内の事例と比較して優れており、北海道内の今後の取組の参考とすべき点
- 観光庁の測定モデル等を活用したI及びM開催による経済波及効果の推計
- その他、北海道にI及びMを誘致するにあたり、着目すべき点

(4) 国内外のユニークベニユーの活用事例の把握

- 北海道のユニークベニユー開発に参考となる国内外のユニークベニユーの活用事例を、有識者に協力を仰ぐ等して収集する。
- その際、北海道らしいユニークベニユーの活用という視点から、雪を活用した事例や先住民族に関する事例等、自然環境や歴史・伝統文化等に関して北海道に参考となるものを中心に事例を把握する。

3 北海道内におけるインセンティブ及びミーティングの事例概要調査

(1) 調査概要

2009～2013年に北海道内で開催された主に海外からのI及びMについて、北海道コンベンション誘致推進協議会の構成機関（札幌、旭川、函館、釧路、北見）を中心に、コンベンションビューローや自治体MICE担当部局への聞き取り等により、①主催者、②開催地、③開催時期、④参加者数等について情報を収集（20件）

(2) 調査結果

No.	IorM区分	①主催者	②開催地	③開催時期	④参加者数
1	I	台湾生命保険会社	札幌市	2013年6月	900名
2	I	台湾保険会社	札幌市	2013年3月	140名
3	I	台湾金融会社	札幌市	2013年3月	183名
4	I	台湾金融会社	札幌市	2012年5月	600名
5	I	中国化粧品会社	札幌市	2012年5月	400名
6	I	韓国生命保険会社	札幌市	2012年10月	138名
7	I	韓国クレジットカード会社	札幌市	2012年5月	160名
8	I	韓国食品会社	札幌市	2012年4月	95名
9	I	香港生活用品会社	札幌市	2013年2月	40名
10	I	タイ自動車関連会社	札幌市	2013年3月	250名

No.	IorM区分	①主催者	②開催地	③開催時期	④参加者数
11	I	タイ政府都市行政関係者	札幌市	2013年3月	44名
12	I	タイ塗装会社	札幌市	2012年11月	422名
13	I	タイ政府医療関係者	札幌市	2012年8月	38名
14	I	タイ政府財政局関係者	札幌市	2012年7月	54名
15	I	マレーシア建設会社	札幌市	2012年12月	290名
16	I	マレーシア空調機械製造会社	札幌市	2012年5月	120名
17	I	シンガポール梱包会社	札幌市	2012年9月	51名
18	I	インドネシア生命保険会社	函館市	2013年12月	70～80名
19	I	インドネシア溶接機等の卸売会社	函館市	2013年9月	30名
20	M	国内製薬会社	留寿都村	2014年6月	約1,100名

4 北海道内におけるインセンティブ及びミーティングの事例詳細調査

(1) 調査概要

当初、概要調査で得られた事例を基に、当該事例の開催地、主催者の考えについて詳細な調査を行う予定であったが、情報を得るにあたって付された条件により、主催者へのアプローチができなかったため、ホテル等の観光施設や旅行会社に対して追加取材を行った。

(2) 調査項目

①	主催者
②	開催地
③	開催時期
④	参加者数
⑤	宿泊施設
⑥	決定時期

⑦	主催者の開催地に関する情報入手方法
⑧	開催地を決定した上で重視した項目
⑨	主催者の支出額
⑩	開催地側からの誘致活動
⑪	開催支援の内容、主催者・開催者からの声

4 北海道内におけるインセンティブ及びミーティングの事例詳細調査

(3) 調査結果 (インセンティブ①)

No.	①主催者	②開催地 ③開催時期 ④参加者数 ⑤宿泊施設	⑥決定時期 ⑦主催者の開催地に関する情報入手方法	⑧開催地を決定した上で重視した項目	⑨主催者の支出額 (国際線航空運賃を除く)	⑩開催地側からの誘致活動 ⑪開催支援の内容
1	台湾の生命保険会社	②札幌市、登別市、洞爺湖町、小樽市 ③2013年5月29日～6月6日までの期間中、各団体6日間 ④合計900名 (4団体に分けて来訪) 最小160名、最大260名 ⑤ロイトン札幌	⑦札幌国際プラザの誘致活動	・食、自然 ・大人数の収容可能な宴会場の確保	7,000万円	⑩2013年1月主催企業の関係者が事前視察のため来札。その際、札幌国際プラザが空港での歓迎行事に参加。 ⑪札幌国際プラザにおいて、助成制度によりお神輿のアトラクションを提供
2	中国の乳業メーカー	②東京都、富士山、京都府、大阪府、洞爺湖町、札幌市 ③2014年12月13日～19日 ④130名 ⑤洞爺湖温泉 洞爺湖畔亭	⑥2014年10月頃	・自然 (景勝地)、グルメ、日本伝統文化体験等 ・露天風呂、和室を希望。移動バスの新車希望	約1,500万円	⑩中国側旅行会社からの提案のため、開催地側からの誘致活動はなし
3	中国自動車メーカー	②洞爺湖町 ③2014年9月10日～14日 ④60名 ⑤ザ・ウインザーホテル洞爺	⑥2014年8月頃 ⑦中国側のコーディネーターからの提案	・ホテルのリゾート施設であるゴルフ場 (ウインザー・グレート・ピーク・オブ・トーヤ) の環境、グルメ	交通費 (日本入国～出国) 約430万円	⑩中国側コーディネーターからの提案のため、開催地側からの誘致活動はなし
4	中国化粧品会社	②札幌市、登別市、小樽市 ③012年5月12日～6月16日までの期間中、各団体4日間 ④合計400名 (7団体に分けて来訪) 最小40名、最大80名 ⑤東京ドームホテル札幌、センチュリーロイヤルホテル	⑦J N T Oによる誘致活動等	・自然	5,500万円	⑩ ・2011年12月「ジャパンインセンティブショーケース2011」により主催者が札幌視察。その後、中国の旅行オンライン予約会社が顧客企業対象の北海道ツアーを実施 ・2012年4月にJ N T O (日本政府観光局) より、コンベンションビューローに開催支援依頼の連絡 ⑪補助金支給、現地側への連絡等
5	韓国生命保険会社	②留寿都町ほか ③2014年11月1日～ ④450名 ⑤ルスツリゾート	⑥2014年8月 ⑦ランドオペレータ経由	・食、自然	5,000万円	⑩北海道ルスツリゾートの担当者が韓国を訪問し、ルスツの良さをアピール (食事、広い部屋、Wi-Fiの完備、周辺観光のアクセスの良さ等)
6	タイの情報通信会社	②登別市ほか ③2014年3月～5月 ④約70名	⑦道内の観光圏協議会による誘致活動	・食、自然	500万円	⑩平成24年度ビジットジャパン地方連携事業「タイ北海道観光プロモーション」旅行会社招請事業にて招聘
7	タイの石油メーカー	②登別市ほか ③2014年2月1日 ④約70名	⑦道内の広域観光圏協議会による誘致活動	・食、自然 (特に普段見ることのない雪や氷)	500万円	⑩平成24年度ビジットジャパン地方連携事業「タイ北海道観光プロモーション」旅行会社招請事業にて招聘

4 北海道内におけるインセンティブ及びミーティングの事例詳細調査

(3) 調査結果（インセンティブ②）

No.	①主催者	②開催地 ③開催時期 ④参加者数 ⑤宿泊施設	⑥決定時期 ⑦主催者の開催地に関する情報入手方法	⑧開催地を決定した上で重視した項目	⑨主催者の支出額（国際線航空運賃を除く）	⑩開催地側からの誘致活動 ⑪開催支援の内容
8	タイの自動車販売会社	②登別市 ③2011年3月7日～ ④約70名	⑦道内の広域観光圏協議会による誘致活動	・食、自然	700万円	⑩平成24年度ビジットジャパン地方連携事業「タイ北海道観光プロモーション」旅行会社招請事業にて招聘
9	タイのエネルギー会社	②札幌市、小樽市 ③2010年7月中旬 ④80名 ⑤シェラトンホテル札幌（現ホテルエミシア札幌）	⑥2010年3月頃 ⑦2010年4月（関係者による事前視察ツアー）	・宿泊先の部屋の広さ	1,500万円	⑩国内ランドオペレーターから、北海道の食・気候・アクティビティの魅力をアピール
10	マレーシアの日用品メーカー	②札幌市、小樽市、留寿都村 ③2013年12月4日～11日、12月7日～11日、12月8日～12日 ④498名（12月10日に全体の食事会を開催） ⑤ロイトン札幌	⑦2012年4月（関係者による事前視察ツアー）	・不明	5,000万円	⑩国内ランドオペレーターから、北海道の食・気候・アクティビティの魅力をアピール ⑪ ・大人数の収容可能な宴会場の確保 ・開催地側のホテルが夕食会でY o s a k o i ソーランパフォーマンスを提供 ・コンベンションビューローが新千歳空港での国際線到着口でのウェルカムビジョンの放映
11	シンガポールの生命保険会社の支社	②登別市ほか ③2014年2月1日～ ④約30名	⑦道内の広域観光圏協議会による誘致活動	・食、自然	400万円	⑩平成24年度ビジットジャパン地方連携事業「シンガポール北海道観光プロモーション」旅行会社招請事業にて招聘
12	日本の家電メーカーシンガポール支社	②登別市ほか ③2013年9月1日～ ④約30名	⑦道内の広域観光圏協議会による誘致活動	・食、自然	300万円	⑩平成24年度ビジットジャパン地方連携事業「シンガポール北海道観光プロモーション」旅行会社招請事業にて招聘
13	シンガポールの化粧品会社	②登別市ほか ③2013年5月1日～ ④約30名	⑦道内の広域観光圏協議会による誘致活動	・食、自然	250万円	⑩平成24年度ビジットジャパン地方連携事業「シンガポール北海道観光プロモーション」旅行会社招請事業にて招聘
14	シンガポールのテレビ局	②道北及び道東 ③2012年3月1日～ ④130名 ⑤阿寒内ホテル	⑥2011年12月頃 ⑦取引先からの情報	・宿泊施設と宴会場の確保	1,200万円	—

4 北海道内におけるインセンティブ及びミーティングの事例詳細調査

(4) 北海道内のインセンティブの特徴

- 開催地は、札幌、小樽、登別、洞爺湖、留寿都といった都市や、有名な観光地が選ばれる例が多い。
- 開催時期は、春から秋にかけて観光好適な時期が多い。東南アジアからのツアーでは冬の時期も選ばれている。
- 宿泊施設は、ツアー客を受け入れる大規模施設を選ぶ事例が多い。部屋は広いほうが好まれ、和室の要望もある。
- 主催者は、生命保険、化粧品、通販会社等の業種の事例が多い。
- 参加者数は、30名から900名と幅広いが、1,000名を超えるツアーの場合には、移動、宿泊等の問題から、グループに分け数回で実施するケースがあった。
- ツアーのルートは、札幌を起点にチャーターしたバスで道内各地へ移動し、札幌から帰国する例が多かった。
- ツアー日程は、4日～6日程度が多い。ツアーの多くは、国外もしくは国内から直接札幌に飛行機で乗り入れ、短い期間で効率的にツアーを楽しむ、札幌中心の行程が組まれている。

4 北海道内におけるインセンティブ及びミーティングの事例詳細調査

(5) 調査結果 (ミーティング)

No.	①内容	②開催地 ③開催時期 ④参加者数 ⑤会場	⑥決定時期 ⑦主催者の開催地に関する情報入手方法	⑧開催地を決定した上で重視した項目	⑨開催地側からの誘致活動 ⑩開催支援の内容	⑪主催者・開催者からの声
1	日本・中国・韓国の研究機関によるサマースクール	②留寿都村 ③2009年8月3日～6日 ④70名 ⑤ルスツリゾート	-	・施設が充実していること ・遊園地、プール等があり同僚家族も楽しめること ・冷涼な気候と食事	⑩ホテルフロントが英文で案内文書を作成	-
2	中国の銀行（本社香港）の実施するスポーツ大会後援事業のためのミーティング	②札幌市 ③2015年2月27日～3月3日 ④70名 ⑤ホテルエミシア札幌	⑦中国旅行会社からの情報	・主催者の当地での開催要望	⑩ ・ガラディナー（特別な食事を策定して、海外の企業向けの具体的な提案をすべき）でのアトラクションの提案 ・各種行政の助成情報の提供等	・北海道ならではの地域が誇るものを策定して、海外の企業向けの具体的な提案をすべき ・現在は、相談されたらその都度対応するケースが多いため、網羅的な情報提供が必要
3	食品会社（本社札幌市）の経営方針説明会	②札幌市 ③2013年5月1日 ④500名	-	・交通の利便性	-	・交通の利便性、会場面積等開催に適した会場の確保と、開催費用の低減化が課題
4	自動車メーカー（旭川市）労組の記念式典	②留寿都村 ③2014年9月14日～15日 ④約300名 ⑤ルスツリゾート	-	・会議室の充実した施設	-	-
5	医薬品メーカー（日本）社員研修（大自然の中での体験プログラムや地域貢献活動を実施）	②留寿都村 ③2014年6月26日～6月30日 ④1,100名 ⑤ルスツリゾート	-	・製薬会社として「健康を意識した研修にしたい」との要望よりアンチエイジングリゾートとしてのルスツの取組を評価	-	・大自然の中での体験プログラム、地域貢献活動を行った

4 北海道内におけるインセンティブ及びミーティングの事例詳細調査

(6) 北海道内のミーティングの特徴

- 札幌を中心に開催場所が選定されている。Mの規模、参加者数、収容施設等を考えると、札幌となる場合が多い。参加者は札幌に空路で入るケースがほとんどのため、交通の面からも札幌に集中することになると推測される。
- 会議室等の充実した施設のほか、気候、食事、交通の利便性も開催地選定の重視項目にあげられている。
- 北海道ならではの地域が誇るものを策定し、海外の企業向けの具体的な提案をすべきとの意見、網羅的な情報提供が必要とする意見があった。

5 北海道外におけるインセンティブ及びミーティングの事例概要調査

(1) 調査概要

2009～2013年に北海道外で開催された主に海外からのI及びMについて、「インセンティブツアー」、「社内会議（自社施設以外で開催されたもの）」、「研修」を主な来訪目的として訪問した者の数が多い自治体を中心に、①主催者、②開催地、③開催時期、④参加者数等について情報を収集（20件）

(2) 調査結果

No.	IorM区分	①主催者	②開催地	③開催時期	④参加者数
1	I	台湾自動車会社	神戸市	2011年3月	380名
2	I	台湾自動車会社	神戸市	2011年9月	480名
3	I	マレーシア工業機器会社	神戸市	2011年10月	150名
4	I	台湾自動車会社	神戸市	2012年3月	300名
5	I	台湾保険会社	神戸市	2012年3月	308名
6	I	台湾食品会社	沖縄県	2014年3月	5,000名
7	I	中国(上海)産業ロボット機器製造会社	福岡県・熊本県・大分県	2014年4月	42名
8	I	台湾旅行会社	福岡県・熊本県・大分県	2014年11月	156名
9	I	中国(上海)貿易会社	福岡県・熊本県・大分県	2014年11月	58名
10	I	韓国ウエディング関係会社	沖縄県	2015年1月	130名

No.	IorM区分	①主催者	②開催地	③開催時期	④参加者数
11	I	香港IT会社	沖縄県	2015年1月	120名
12	M	中国化粧品会社	千葉市	2009年10月	44名
13	M	不明	千葉市	2009年11月	24名
14	M	中国企業	浦安市	2009年11月	20名
15	M	台湾不動産会社	千葉市	2010年10月	31名
16	M	国内製薬会社	東京都	2008年5月	500名
17	M	国内専門商社	仙台市、東京都	2013年6月～11月 (複数回)	3,200名
18	M	国内食品小売会社	大阪市	2015年5月	不明
19	M	国内スポーツ用品メーカー	米子市	2013年9月	20名
20	M	韓国旅行会社	境港市	2013年11月	155名

6 北海道外におけるインセンティブ及びミーティングの事例詳細調査

(1) 調査概要

概要調査で得られた事例を基に、当該事例の開催地、主催者側の考えについて、下記の項目について調査を実施した。概要調査の事例に加え、さらにインバウンドを専門とする有識者からの取材を通じて事例を収集し、これらについても調査を行った。

(2) 調査項目

①	主催者
②	開催地
③	開催時期
④	参加者数
⑤	宿泊施設
⑥	決定時期

⑦	主催者の開催地に関する情報入手方法
⑧	開催地を決定した上で重視した項目
⑨	主催者の支出額
⑩	開催地側からの誘致活動
⑪	開催支援の内容、主催者・開催者からの声

6 北海道外におけるインセンティブ及びミーティングの事例詳細調査

(3) 調査結果（インセンティブ①）

No.	①主催者	②開催地 ③開催時期 ④参加者数 ⑤宿泊施設	⑥決定時期 ⑦主催者の開催地に関する情報入手方法	⑧開催地を決定した上で重視した項目	⑨主催者の支出額（国際線航空運賃は除く）	⑩開催地側からの誘致活動 ⑪開催支援の内容
1	香港の保険会社	②大阪市 ③2010年6月1日～3日 ④800名 ⑤ヒルトン大阪	⑥2010年2月 ⑦ランドオペレーターによるプレゼンテーション	・宿泊施設と宴会場の確保	非公開	⑩日本の旅行社が主催企業の入札に参加、主催者企業にプレゼンテーションを実施
2	シンガポールのテレビ局	②九州全般 ③2011年3月1日～ ④150名 ⑤別府市内ホテル	⑥2010年12月 ⑦ランドオペレーターによるプレゼンテーション	・宿泊施設と宴会場の確保	非公開	⑩日本の旅行社が主催企業の入札に参加、主催者企業にプレゼンテーションを実施
3	台湾の保険会社	②神戸市 ③2011年6月2日～ ④308名 ⑤神戸市内ホテル	⑥2011年1月 ⑦ランドオペレーターによるプレゼンテーション	—	非公開	⑪神戸国際観光コンベンション協会において、アトラクション（サンバ、和太鼓）の助成を実施
4	台湾の自動車会社	②神戸市 ③2011年9月27日～10月27日 ④480名（80名×6グループ） ⑤神戸市内ホテル	⑦台湾の旅行社を通じて情報入手	—	非公開	⑪神戸国際観光コンベンション協会において、移動用の観光バス代金の助成を実施
5	マレーシアの工業機器会社	②神戸市 ③2011年10月27日～29日 ④150名 ⑤神戸市内ホテル	⑦台湾の旅行社を通じて情報入手	・食、自然	非公開	⑪神戸国際観光コンベンション協会において、親善大使の派遣、観光ブッククーポンの配布を実施
6	台湾の自動車会社	②神戸市 ③2012年3月4日～8日 ④300名 ⑤神戸市内ホテル	⑦台湾の旅行社を通じて情報入手	—	非公開	⑪神戸国際観光コンベンション協会において、観光バス代金助成
7	香港の保険会社	②京都市 ③2012年6月1日～3日 ④900名 ⑤ウエスティン京都	⑥2012年2月 ⑦ランドオペレーターによるプレゼンテーション	・宿泊施設と宴会場の確保	非公開	⑩日本の旅行社が主催企業の入札に参加、主催者企業にプレゼンテーションを実施
8	タイの重機会社	②東京都2泊、富士山1泊 ③2012年8月1日～4日 ④450名 ⑤都内ホテル（池袋）	⑥2012年6月 ⑦ランドオペレーターによるプレゼンテーション	・宿泊施設の確保	非公開	⑩日本の旅行社が主催企業の入札に参加、主催者企業にプレゼンテーションを実施
9	台湾の化粧品会社	②九州全般 ③2013年2月14日～、15日～ ④200名（100名×2グループ） ⑤指宿市内ホテル、シーガイア、キャナルシティ博多	⑥2012年10月 ⑦現地エージェントから情報入手	—	非公開	⑩福岡観光コンベンションビューローが訪台してアプローチ ⑪福岡観光コンベンションビューローにおいて、空港での歓迎式、記念品、観光ガイドブック、オリジナルノベルティグッズの提供

6 北海道外におけるインセンティブ及びミーティングの事例詳細調査

(3) 調査結果 (インセンティブ②)

No.	①主催者	②開催地 ③開催時期 ④参加者数 ⑤宿泊施設	⑥決定時期 ⑦主催者の開催地に関する情報入手方法	⑧開催地を決定した上で重視した項目	⑨主催者の支出額 (国際線航空運賃は除く)	⑩開催地側からの誘致活動 ⑪開催支援の内容
10	台湾の食品会社	②沖縄県 ③2014年3月～6月 ④1500名 (30名×50グループ) ⑤沖縄都ホテル、リザンシーパーク、サザンビーチホテル	⑥2012年10月	・宿泊先の部屋の広さ	非公開	⑩沖縄観光コンベンションビューロー台湾事務所を通じてアプローチ ⑪沖縄観光コンベンションビューローにおいて、空港での歓迎式、オリジナルノベルティグッズの提供、食費を除く費用の一部補助を実施
11	中国の金属メーカー	②岡山～四国 (高松・徳島)～関西 (神戸・京都・大阪) ③2014年10月2日～7日 ④60名 ⑤岡山国際ホテル	⑥2014年8月	・自然 (景勝地)、知名度の高い観光地、グルメ、大型ショッピング施設等 ・露天風呂、和室、移動バスの新車希望	約700万円	-
12	中国の製紙会社	②和歌山・大阪・京都・奈良・名古屋・富士山 ③2014年10月20日～27日 ④25名 ⑤ホテルグランピア和歌山	⑥2014年8月	・露天風呂、和室を希望 ・移動のバスは新車希望	約400万円	⑩日本の製紙工場等への視察・研修のため、中国側でルート決定したため、開催地側からの誘致活動はなし
13	日本家電メーカーの中国法人	②静岡県、箱根町 ③2014年11月16日～22日 ④40名 ⑤ホテルセンチュリー静岡	⑥2014年9月1日 ⑦日本本社から情報入手	・宿泊地は日本本社が指定 ・移動のバスは新車希望	約500万円	⑩日本の本社が視察・研修のために企画したため、開催地側からの誘致活動はなし
14	日本メーカーの中国法人	②浜松市、箱根町 ③2014年11月17日～22日 ④65名 ⑤ホテルオークラ浜松	⑦日本本社から情報入手	・宿泊地は日本本社が指定 ・移動のバスは新車希望	約800万円	⑩日本の本社が視察・研修のために企画したため、開催地側からの誘致活動はなし
15	日本の金属加工機械製造企業の中国法人	②朝霧高原 (静岡県富士宮市北部・富士山西麓) ③2014年11月18日～22日 ④25名 ⑤朝霧スクエア	⑥2014年9月1日 ⑦日本本社から情報入手	・宿泊地は日本本社が指定 ・移動のバスは新車希望	約300万円	-
16	韓国のウェディング関係会社	②沖縄県 ③2015年1月1日～ ④130名 ⑤ホテル日航アリビラ、サザンビーチホテル	⑦沖縄観光コンベンションビューローから情報入手	-	非公開	⑩沖縄観光コンベンションビューローにおいて、沖縄ウェディング関連業者とのマッチング、ツアー行程の提案、沖縄芸術団の派遣費用の負担、空港で歓迎式の実施
17	香港のIT会社	②沖縄県 ③2015年1月1日～ ④120名 ⑤万座ビーチリゾートホテル	⑦沖縄観光コンベンションビューローから情報入手	・宿泊地は日本本社が指定 ・移動のバスは新車希望	非公開	⑩沖縄観光コンベンションビューローにおいて、主催者事前視察費用・シャトルバス費用・宿泊費用の一部負担、コンテンツの情報提供

6 北海道外におけるインセンティブ及びミーティングの事例詳細調査

(4) 北海道外のインセンティブの特徴

- 各地での開催時期については、4月から10月頃という事例が多い。日本の四季それぞれに合わせた開催があり、気候もツアーのポイントとなっている。
- 宿泊施設は、部屋の広さが条件となる例があった。日本のホテルの平均的な広さは、外国人には狭いと考えられる。和室を希望する例もある。
- ツアーのルートは、ゴールデンルートが定番となっている。特に中国からの旅行客は「富士山」への関心が高い。ツアーのルートは旅行会社の提案が中心となることが多い。
- ツアーの人数に関わらず、観光バスでの移動が多い。最近では、新幹線への関心も高まっており、JRを選択する場合もある。
- 参加者数は、数十名から数百名と幅広いが、人数が多い場合は、いくつかのグループに分けて行動するパターンが多い。開催日をずらして日程を組むが、ツアー参加者全員が一堂に会する機会を設け、全員で宴会（パーティー）をするというものもあった。

6 北海道外におけるインセンティブ及びミーティングの事例詳細調査

(5) 調査結果 (ミーティング)

No.	①内容	②開催地 ③開催時期 ④参加者数 ⑤会場	⑥決定時期 ⑦主催者の開催地に関する情報入手方法	⑧開催地を決定した上で重視した項目	⑨開催地側からの誘致活動 ⑩開催支援の内容	⑪主催者・開催者からの声
1	国内製薬会社の中期経営計画説明会	②東京都 ③2008年5月9日 ④500名 ⑤経団連ホール	-	・収容人数と交通利便性	⑨企業側の企画のため誘致活動は特になし ⑩開催支援の内容	・交通の便が良い ・会場使用手続きが若干面倒
2	国内専門商社の創業記念企業ミーティング	②仙台、東京、名古屋、大阪、広島、福岡 ③2013年6月～11月 ④3,200名 ⑤東京ビッグサイトほか	⑦企画会社から会場情報等を入手	・企画会社の推薦	⑨開催企業の企画のため誘致活動は特になし	-
3	食品小売会社の新年度事業方針説明ミーティング	②大阪 ③2015年5月22日(予定) ④第1部：500名 第2部：220名 ⑤第1部：大阪府立男女共同参画・青少年センター 第2部：エル・おおさか本館会議室	-	・本社所在地を開催地とした	⑨開催企業の企画のため誘致活動は特になし	-

6 北海道外におけるインセンティブ及びミーティングの事例詳細調査

(6) 北海道外のミーティングの特徴

- ミーティングを主催する企業の本社所在地の例が多い。会場は参加人数により選定される。
- 企業ミーティングの場合には、誘致活動等が行われることは少ない。
- 自治体等による主な誘致活動はコンベンションを対象にしていることもあり、ミーティング開催への支援は特に行われていない。

7 有識者へのヒアリング調査結果

① インセンティブ

- インセンティブは、企業が費用をかけて、社員のロイヤリティを高めるために実施するものである。インセンティブは「特別感のある贅沢な旅行」という側面があり、実施する企業にとっても参加者が「特別にもてなされている」というイメージを大切にする。
- 日本が選ばれる理由は、和食に代表される食のおいしさ、食材の安全性への信頼の高さである。

② ミーティング

- 海外からのミーティングには、日本の会社の現地法人の社員、役員を招集するミーティングがあるようだが、公表されないため把握が難しい。
- 本社所在地や、工場、研修所のある場所での開催が多くなるため、どうしても東京、大阪といった大都市に集中しがちである。
- 北海道では、自動車会社のテストコースなどもあるが、研修施設は少ないため、ミーティングの開催は少ない。

8 インセンティブ、ミーティング事例調査及び有識者ヒアリング調査からの考察

①開催地

- 開催地としての「北海道」は、ひとつの大きな観光ブランドである。海外旅行会社との商談においても、送客先として、北海道はよく候補になる。インセンティブの対象としての北海道の潜在的な需要は大いにあると考えられる。
- ミーティングは、日本側企業本社等の所在地で開催されることが多いため、企業の本社がある東京での開催事例が多い。

②その他

- 北海道内、北海道外に共通して、「食」と「自然」は開催地決定の大きな要素となっており、誘致へのアピールポイントである。
- 道内のインセンティブは、アジア諸国からのツアーが大半であり、アジア諸国の中でも、中国、韓国からの企業は春から秋にかけての実施が多く、シンガポール、タイ、マレーシア、インドネシアの国々の企業は、冬季に実施しているものが多い。

8 インセンティブ、ミーティング事例調査及び有識者ヒアリング調査からの考察

① 今後改善すべきと考えられる点

- 開催地としての「北海道」は、ひとつの大きな観光ブランドである。海外旅行会社との商談では、送客先の候補地に挙げられる。インセンティブの対象としての北海道の潜在的な需要は大いにあると考えられる。しかし、現在のルートは札幌を起点とした周辺有名観光地を中心に展開されている事例が圧倒的に多い。全国的に有名な地域資源が豊富な道内のエリアルートの活用、拡大が望まれる。
- 北海道内の「食」と「自然」は開催地決定の大きな要素となっており、誘致へのアピールポイントとなっている。事例調査では、札幌以外のグルメ情報が少ない等の指摘があり、より多くの情報発信を望む声が多い。
- MICEへの支援制度は、公的な国際会議等への支援が中心となっているが、IやMに対する支援、定期的な支援情報の提供が望まれる。

② 道外の事例から、道内と比較して優れており、道内における今後の取組の参考とすべき点

- ツアールートはゴールデンルートが定番となっている。特に中国からの旅行者は「富士山」への関心が高い。旅行会社からの提案段階で候補地が絞られているため、主催者が希望しないかぎり、その他の地域が候補地となることは少ない。
- ゴールデンルートの中にあって地域ブランドを確立しており、さらなる海外からの誘致を促進するために、多言語（10か国）による観光情報ガイドブックを作成し、積極的な情報発信をしている地域もある。
- Iの移動手段として、空港からのシャトルバスの補助、宿泊費用の一部補助をすることで誘致促進につなげている地域がある。

9 インセンティブ開催による経済波及効果試算

- 「MICE 開催による地域経済波及効果測定モデル」(観光庁)を利用して、本調査で収集した事例をもとに、インセンティブ開催による経済波及効果を試算。

【事例①】

札幌市(外国人参加者80人、主催者事業費15,000千円)

項目	【札幌市】	【北海道】	【全国】
経済波及効果の総額	19百万円	26百万円	42百万円
就業効果	570人・日	624人・日	856人・日
税収効果	0.2百万円(市町村税)	0.3百万円(都道府県税)	2.1百万円(国税)

【事例③】

札幌市(外国人参加者400人、主催者事業費55,000千円)

項目	【札幌市】	【北海道】	【全国】
経済波及効果の総額	75百万円	102百万円	169百万円
就業効果	2,317人・日	2,412人・日	3,392人・日
税収効果	0.8百万円(市町村税)	1.1百万円(都道府県税)	6.9百万円(国税)

【事例⑤】

札幌市、小樽市、留寿都村(外国人参加者500人、主催者事業費50,000千円)

項目	【札幌市】	【北海道】	【全国】
経済波及効果の総額	74百万円	101百万円	173百万円
就業効果	2,400人・日	2,354人・日	3,411人・日
税収効果	0.8百万円(市町村税)	1.1百万円(都道府県税)	7.0百万円(国税)

【事例②】

札幌市、洞爺湖町(外国人参加者130人、主催者事業費15,000千円)

項目	【札幌市】	【北海道】	【全国】
経済波及効果の総額	21百万円	29百万円	49百万円
就業効果	676人・日	681人・日	973人・日
税収効果	0.2百万円(市町村税)	0.4百万円(都道府県税)	2.4百万円(国税)

【事例④】

札幌市、登別市、洞爺湖町、小樽市(外国人参加者900人、主催者事業費70,000千円)

項目	【札幌市】	【北海道】	【全国】
経済波及効果の総額	113百万円	155百万円	270百万円
就業効果	3,797人・日	3,539人・日	5,265人・日
税収効果	1.2百万円(市町村税)	1.7百万円(都道府県税)	10.9百万円(国税)

【事例⑥】

釧路市(外国人参加者130人、主催者事業費12,000千円)

項目	【札幌市】	【北海道】	【全国】
経済波及効果の総額	19百万円	25百万円	43百万円
就業効果	446人・日	574人・日	839人・日
税収効果	0.2百万円(市町村税)	0.3百万円(都道府県税)	1.7百万円(国税)

◎ 試算結果

- 札幌市開催のⅠについては、開催地に対し主催者事業費の1.3倍～1.6倍程度の経済波及効果。釧路市開催のⅠについても、同様に主催者事業費の1.6倍程度の経済波及効果。

1 0 国内外のユニークベニユーの活用事例

- 「ユニークベニユー」とは、一般に国際会議などの開催にあたり、コンベンション施設やホテルの宴会場といった一般的な会場ではなく、会議やパーティなどを行うために特別に開放された博物館や美術館、歴史的建造物、スポーツ施設、自然空間などの会場や場所。
- 北海道のユニークベニユー開発に参考となる国内外のユニークベニユーの活用事例をWeb調査、文献調査、有識者へのヒアリング調査等により収集。
- 収集にあたっては、北海道らしいユニークベニユーの活用という視点から、魅力的な景観・自然を活かした事例や、先住民族の文化・風習に関連した事例等、自然環境や歴史・伝統文化等に関して北海道に参考となるものを中心に事例を把握。

10 国内外のユニークベニユーの活用事例

① 魅力的な景観・自然を活かしたユニークベニユー

■ 万国津梁館（沖縄県名護市）



出典：万国津梁館HP

- ・東シナ海に面する沖縄県立のリゾートコンベンション施設。
- ・沖縄らしい海や夕日の景観、リゾートMICE施設の設備がユニークベニユーとなっている。
- ・「九州・沖縄サミット」の首脳会合会場として平成12年7月から使用されている。

■ 阿蘇カルデラ風景(熊本県阿蘇市)



- ・熊本県には世界最大のカルデラや阿蘇五岳などの雄大な風景を望む阿蘇山、島々の織りなす美しい海の景観、イルカウォッチングやキリシタン文化伝来の地の見学などの観光スポットがあり、ミーティング後のエクスカージョンに活用している。

出典：阿蘇市観光協会HP

②先住民族の文化・風習に関連したユニークベニュー

■ ジャブカイ・アボリジニ・カルチャーパーク（ケアンズ市・オーストラリア）



出典：ジャブカイ・アボリジニカルチャーパーク及び
Australian Tour Specialists HP

- ・先住民族の文化を紹介するテーマパーク。
- ・1987年、ダンスシアターとして設立。施設名はケアンズ・キュランダ地域に先住していたジャブカイ族に由来し、その子孫たちの一部もスタッフとして働いている。
- ・2002年にはイギリス王室の女王陛下エリザベス2世の訪問を受ける。
- ・2009年には現オーストラリア首相のケビン・ラッドが南太平洋地域の首脳陣を招いたディナー会場としても利用された。

■ チャウタンの水上パゴダと民族村（ミャンマー・ヤンゴン）



出典：「JTB海外観光ガイド」HP

- ・ミャンマーの文化や風習を間近で見たいという観光客向けのテーマパーク。
- ・ミャンマー各国の民族が集まっているので、彼ら独自の服装や風習などを、直接見学、体験できる。
- ・手軽な民族体験の場としてインセンティブやアフターコンベンションにも利用できる。